

令和5年11月27日

四日市港長期構想検討委員会 第2回委員会 議事概要

日時: 令和5年11月27日(月) 15:00~17:00

場所: 都ホテル四日市 4階 伊勢の間

【委員①】

- 四日市港背後圏の化学メーカー企業からは、港内における危険品などの取扱いの拡大が図られる設備があれば、さらに四日市港の利用を図れるといった意見もいただいている。
- 四日市港では、コンテナターミナルの近隣において、危険品の石油類や高純度アンモニア、高圧ガス等の荷捌き場や、保管倉庫、保管蔵置場がないため、四日市港は企業ニーズに機能的に対応できないといった声が多数あがっている。
- コンテナターミナル付近の商港区内の土地を脱炭素化推進地区に指定して、脱炭素化に資する燃料や、水素、アンモニア等を取り扱うことができるよう構築物の規制を緩和するのであれば、四日市港のさらなる港勢発展のために、半導体産業や次世代素材産業等で用いられる石油類の高圧ガス等の取扱いについても、併せて同様な対応をすることを長期構想の中で書き込んでいくことも、四日市港の独自性が出て、非常によいことではないか。

【委員②】

- 四日市港では先進的な素材、製品の製造過程で不可欠となる、例えば特殊なガスや薬剤等の受入れなどに少し課題があり、需要企業への流通が四日市港を起点にスムーズに行われないなど、企業にとって課題となっている。
- 半導体産業、次世代素材産業等で用いられる石油類や高圧ガス等の取扱いについても、脱炭素化の取組に合わせて、同様の対応をすることを長期構想の中で書き込んでいくことが、四日市港の独自性が出て、非常によいという御発言がございましたが、産業政策を所管する行政の立場としても、前向きに御検討いただきたい。

【委員③】

- 四日市臨海部は、かつては化学関係部材の量産を担っていたところを、より付加価値の高い素材や製品の供給を担う場へ変容し、輸送も、タンカー等のバルク船からコンテナの活用に変容してきているところ。今の分区規制は、その変容に、その変化に追いついていない部分があるのではないか。
- 脱炭素化推進協議会での要望は、地域の基幹産業にもなっている半導体産業や次世代素材産業等のニーズに対応する取組であり、背後圏ニーズにマッチした特徴ある港として、港湾間競争に生き残っていくためにぜひ必要なこと。そういった意味から、分区規制の目的というものは維持しつつ、この点についてぜひこの会議でも検討していただいたい。

【委員④】

- 四日市港の産業は、約150年前から随分変遷してきた。これから一番変わるのは石油化学

で、現在の半導体産業も高度な材料や原料に変わりつつあるのが現状で、今の分区制度のままではフィットしないところが出てきている。

- 四日市港港湾脱炭素化推進協議会でいろいろ御議論いただいたことを、この長期構想で取り入れてやっていただければ、港運協会としても非常にありがたい。
- みなとまちづくりは既にみなとまちづくり協議会が取り組んでいるが、その取組も盛り込まれており、しっかりと長期構想に取り入れていただいている。

【委員長】

- 脱炭素化の切り口で議論が進んでいるが、新しく先端的な産業を港がどのように支えていくことができるかという観点で重要なご指摘をいただいた。何らかの形で長期構想の中で反映できるように検討をしていただきたい。
- 新たなテーマとして追加されたまちづくりについては、四日市市の取組とも連携して取り組んだらどうか。

【委員⑤】

- 第一回の検討委員会での意見が全般的に反映されており、長期構想の方向性、内容については賛同する。
- エネルギーを供給する立場として、今後新エネルギーとして水素・アンモニア等を供給するためのインフラ設備が必要になると感じている。物流の話でいえば、新エネルギーのパンカー機能のインフラが重要ではないか。
- また、臨海部、沿岸部における工場の熱源が全て電気に置き換わることは難しいと思われ、新エネルギーへの転換だけでなく、今の化石燃料を使いながら、そこから出てくる CO2 を分離回収して固定化するという、いわゆる CCS も同時並行で進められるとみられる。今後の用地利用面でそういった観点でも考えておくことが必要と感じた。

【四日市港管理組合】

- 脱炭素化推進計画の骨子案の中では CCS についても記載しているが、長期構想の中でもどういった記述ができるか検討していきたい。

【委員⑥】

- 資料 4-p64 (クルーズ船) の分類は I (産業) ではなく II (交流) の方が収まりが良いのではないかと。
- 資料 4-p68 (防災対策) で「住民や企業を守るため」とあるが、海岸保全施設の強靱化は企業の競争力を高めるということも追記を検討いただきたい。
- 港湾工事の作業船やタグボートの係留場所の確保の要望が国交省に多く寄せられている。もし四日市港でも同様の課題があれば、長期構想のなかで触れていただけると良いのではないかと。
- 資料 4-p76 (将来像ゾーニング) に、港の色分けだけでなく、国道バイパス (道路ネットワーク) や JR 四日市駅自由通路など (にぎわい) の背後の状況を書き込み、空間的なつ

なかりを面的に記載することを検討いただきたい。

【四日市港管理組合】

- クルーズ船に関しては国内観光への集客という意味で産業分類にしているが、当然ながら交流の意義もあるので、併記をしている。
- その他のご指摘については、修正する方向で検討する。

【委員⑦】

- 四日市港の直背後においては通常の観光資源が乏しいため、霞ヶ浦地区のコンテナターミナルなどの四日市の産業を支える物流を産業観光の資源として活用すべきである。具体的には、港運のOBによるガイドや、コンテナ積卸作業の見学など、観光協会としても港を学ぶ観光の可能性を探りたい。

【四日市港管理組合】

- 産業観光に関しては、例えば資料4-p77（体制づくり）の人材育成などに含まれる。しかし、明示的な言及が無いので、追加の方向で検討する。

【委員⑧】

- 他の委員の発言にもあったように、船舶燃料としてのアンモニアの供給・保管体制の整備が不可欠である。
- そういった面からも、脱炭素化計画、それからこの長期構想検討委員会の中でも、アンモニアの取扱いに関する柔軟な制度設計を御検討いただけると、海運業界の立場からも大変ありがたい。

【委員⑨】

- 全体的によくできていると思う。
- 新産業、変わりゆく産業に対応して「変わり続ける港」というコンセプトが必要。四日市港は変わり続けられない限り取り残されてしまう。また、近年は半導体産業が主流となってきているように、過去において四日市港が様々な産業構造の変化に対して変わり続けたことについても記載したほうが良い。
- CNに関しては、四日市単独で水素、アンモニアを持ってくるというのはなかなか難しい局面も出てくると思うので、他港との連携について明記した方が良い。
- 変わり続ける港である一方で、「既存の産業や生活を守り続ける港湾」であることは重要で、LNG 発電・石油精製等の旧来の産業も、CCS の導入等必要に応じて守り続けながら、全体としてCNを進めていくことが必要である。長期構想においても、現状に合わせつつ、適切にカーボンニュートラル化を実現していく、エネルギー利用を実現していくといったような、書きぶりの工夫が必要。
- 脱炭素化方策に関し、コンビナートCN化と、港そのものの脱炭素化は分けて書くべきである。

- 交流に関しては、港単独で考えるのではなく、例えば市博物館などと連携して、イベントのような形で回遊性を持たせ、四日市全体を人々に歩いてもらうような仕組みを考えてみるのも良い。

【委員⑩】

- 回遊性については、富田の赤レンガ倉庫などの観光資源がある。
- 前回の検討委員会での指摘事項は反映されており、全般的に同意している。住民参加の要素もしっかり盛り込まれている。ただ、忘れてはならないのは、それは安全・安心あつてものであるということ。
- 安全・安心を根底にそこにいる人の視点でまちづくりを進めていくことが必要。その意味では、環境先進都市である四日市市と連携していくことも考えられる。例えば四日市市認定のエコパートナーと連携して、地域・港を活かすということをしていっても良い。
- 緑地に人を集めるとなっているが、一方で緩衝緑地帯としての本来の機能もあり、まちづくり、環境の両面から丁寧な議論が必要。
- 一般的にパブリックコメントに対して意見が出にくいので、より広く多くの市民から意見が集まるように、パブリックコメントのやり方を工夫して欲しい。

【オブザーバー】

- 四日市地区については物流と人流が混在する構想なので、賑わいのエリアとして整備する際には、既存機能に支障のないように、新しく付加価値が創出できるようなエリアとして取り組むことが重要。
- クルーズ機能については、背後との連携や、港での賑わい拠点との連携等が示されているが、四日市港はクルーズを新しく導入していこうという話なので、ぜひ独自性のある取り組みの検討を深めていただきたい。
- RORO 機能について、首都圏と近畿圏の中間に位置する四日市港は、中距離帯ではあるが物量も多く、海上輸送へのシフトが十分に期待される。さらに、四日市港は鉄道も持っており、この点を強みとして、背後道路だけでなく、鉄道を含めてモーダルシフト（Sea & Rail）を検討したらどうか。

【委員長】

- 脱炭素化への速やかな対応が必要であり、併せて四日市港の変化しつつある背後の産業に対して、それを支えるような港の使い方について、分区の課題が含まれることから、その内容を長期構想にも盛り込む検討が必要である。
- LNG のみならず、アンモニアのバンカリングへの対応が必要である。
- 産業構造の変化に対し、四日市港は柔軟に対応していくということを明記すべき。
- 広域的な回遊性も考慮した港の観光促進が必要である。
- 市民参加について、安全・安心の観点からの検討が必要である。
- 長期構想の将来像、施策について、本日頂いたご意見を踏まえ、不足があるようであれば付け加える。

- パブリックコメントに提出する本文案には今回委員会の意見を反映するが、その内容は委員長一任でよろしいか？ [異議なしの声]

以上